



日本共産党区議会議員

みやざき かつとし 克俊 ニュー入

事務所 品川区豊町6-2-1 TEL3786-6674

2007年11月11日 No.593



品川
区教委

学校統廃合へふみ出す

諮問機関で検討。教育委員は賛否二分



荏原二中は小中一貫校ができたら生徒が来なくなるからと統廃合に。三中と大間窪小の小中一貫校計画で杜松小・四中はどうなるのでしょうか。

品川区と区教委が学校統廃合にふみ出しました。住民の不安が現実のものになりました。区教委はこれまでの「学校選択制は統廃合の手段ではない」「小規模校も支援する」との説明を方向転換。教育長が審議会を設置して、およそ1年かけて統廃合計画を答申するよう諮問しました。

若月教育長は今年6月、諮問機関「学事制度審議会」を設置。「児童・生徒の減少が進み、小規模校においては教育目標を達成しづらくなっている、学年単学級の集中は選択制の趣旨を損なう」として、①適正規模、②規模別配置、③実現するための方策——を検討するよう諮問しました。学校の適正規模と配置、実現する方策となれば、統廃合計画そのもの。教育長は、教育委員会での説明で「環境の変化に対応する中で、結果的に統廃合につながるかもしれない」とのべています。

学校選択制で小規模校が統廃合されるのではないか——という心配に対して、教育委員会はこれまで「学校選択制は統廃合の手段ではない」「小規模校も支援する」と説明。統廃合は地域か

ら要望があった場合に考えると
のべてきました。

しかし、諮問機関を設置して
統廃合計画をまとめさせるとな

れば、教育長が統廃合を主導す
るということです。これまでの

説明を180度方向転換するも
のです。

学校の統廃合 区内の小中学校は半分に…？ 「コスト論」で統廃合を迫る区長

学校の統廃合は濱野区長が旗
振り役です。濱野区長は、今年
の予算議会冒頭の「施政方針説
明」で「児童・生徒数が大幅に減
少していることを踏まえて、学
校の適正規模のあり方等につい
て検討を進めてまいります」と

発言。6月12日の教育委員会に
企画部長を出席させて「区長部
局からの提案」としてコスト削
減の視点から小規模校の統廃合
を迫ったのです。

区教委は、この提案を受けて

「これまで小規模校を支援して

きたが、設置者である区長が検
討の必要性を認識している。教
委もこれを踏まえ検討していく
べきだ」と、統廃合へ方針転換
したのです。

◆
統廃合で品川区内の学校はど
うなるでしょうか。

平塚中と平塚小の一貫校に荏
原二中を加える際の説明資料で
区教委事務局は、中学校の規模
を「12〜15クラス」としています。

これは一学年4〜5クラスとい
うことです。この基準を当ては
めると区内の小中学校が半減す
る計算になります。

教育委員会資料では、今年

小学生1万1千958人、中学
生4千790人。小学校40校、
中学校18校です。これを1学年

4クラス（小学校は6年で24ク
ラス）とすると、現在の基準は

1クラス40人ですから小学校は
298クラスでおよそ17校。小
中一貫校のぞく38校が半分以下
になる計算です。また、中学校
も同じように計算すると9校と、
現在（小中一貫校のぞく16校）か

ら半減します。

区教委がこの考え方を踏襲す
るのか不明ですが、コスト論を
前面にしたなら「学校は少ないほ
うがいい」となってしまう。

品川区は昨年度だけでも新たな
基金への積み立ては100億円
を超えました。金がないわけ
はない。財政を優先して子ども
に犠牲を押し付け、教育をゆが
めることは許されません。

統廃合 に異議

教育委員会で意見わかれるなか 審議会答申を「錦の御旗」に

学校統廃合に教育委員会は意
見が賛否二分しています。

6月12日の教育委員会の議論
では、委員から「少人数が学習
指導要領の目的を達成できない
というのには根拠に乏しい」、「人
口構成の推移は予測できず、

そのうえで選択制を実施した。
適正規模の検討に人口構成の変
化を挙げるのは理由に乏しい」、

「教委が率先して統廃合を検討

することに疑問がある」など反
対意見が出されました。

こうしたなかで、学事制度審
議会の答申を統廃合推進の「錦
の御旗」にしようという狙いは
明らかです。

学事制度審議会は、委員13名
は教育長が任命し、審議内容は
非公開です。教育の場でこうし
たやり方はもともと非教育的と
いわざるを得ません。

無料
法律相談は

11月22日(木) Pm 6:30

みやざき克俊事務所

